

リエイブルメントを目指すための 介護予防教室の転換に向けて

茨城県鉾田市 地域包括支援センター

鉾田市の概要



- ▶平成17年10月11日、旧旭村、旧鉾田町、旧大洋村が合併し誕生しました。
- ▶茨城県の東南部、鹿行エリアの最北部から中央部にかけて位置し、南北に24km、東西に17kmと広がり、面積は207.6km²でその内陸部のほとんどが平坦地です。
- ▶基幹産業は農業。メロン、いちごなどの果物やトマト、さつまいも、水菜等の栽培でも全国有数の生産地であり、野菜の農業産出額10年連続全国1位となっています。
- ▶海岸部では海水浴や釣り、サーフィンなどが人気。キャンプ場やゴルフ場が数多く立地し、温泉や果物狩りも楽しめます。



鉢田市の概要

●鉢田市を観る



塔ヶ崎十一面觀世音
とうがきじゅういちめんかんぜおん



福泉寺
ふくせんじ



大儀寺　だいぎじ



厳島神社
いつくしまじんじや



涸沼
ひぬま



安塚公園
やすつかこうえん



鉢神社
はこじんじや



鉢神社御例大祭
はこじんじやごれいたいさい

●鉢田市を遊ぶ

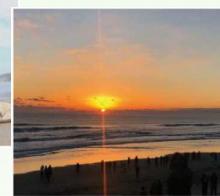
鹿島灘エリア



鹿島灘海滨公園
かしまだかいひんこうえん



大竹海岸
おおたけかいがん



北浦エリア



涸沼エリア

●果物狩り



メロン狩り



写真提供：深作農園



鉾田市の概要

●温泉



2種類の天然温泉と炭酸浴でリラックス! ゆったり、すっきり、楽しみながら健康づくりができるリラクゼーション施設。広々とした自然豊かな芝生広場には遊具、屋内プールにはお子様が喜ぶスライダーもあります。



湖沼の豊富な自然に囲まれた中でのアクティビティは格別! 天然芝で楽しむグラウンドゴルフや屋外のなんばくプール(夏季)、世界一周体験ができるバーチャルゴルフなど、年齢問わず楽しめます。

●お土産に、ご自宅に



スパイス



メロン最中



鉢田市の概要

- 人口 : 46,303人 (R1.4.1現在)
- 65歳以上人口 : 16,130人
- 高齢化率 : 34.84%
- 後期高齢者数 : 8,660人
- 後期高齢者割合 : 18.70%
- 日常生活圏域 : 3圏域
- 地域包括支援センター : 3ヶ所(直営、委託2)
- 在宅介護支援センター : 6ヶ所

●鉢田地区(旧鉢田町)

江戸時代に東北や常陸地方と江戸を結ぶ水陸交通の要衝として発展、人馬の往来や海産物を中心とした物資の流通が盛んになり、江戸方面への農産物の出荷も行われていました。



●旭地区(旧旭村)

旭地域は、畑作農業が中心でビニールハウスによる施設園芸が盛んな地域です。また温暖な気候で、土壌は関東ローム層で水はけが良く、昼夜間の気温差が大きいことからメロンやトマトの栽培が盛んです。



●大洋地区(旧大洋村)

「サラリーマンでも買える別荘」というキャッチフレーズで物件が売り出され、別荘地が乱開発されました。売れ残った別荘や持ち主が亡くなったり等で放置された別荘が格安で販売され「建物が安い」「物価が安い」という理由で高齢者も移住しています。



伴走支援を希望した経緯

伴走支援を希望する以前の鉢田市は…

地域支援事業の交付
金が上限額を超えて
いるんだけど…

従前相当サービスだけ。
多様なサービス
はない。

ボランティアなんか
してくれる人なんて
いないから

元気な人は働いて
いるし…

住民も家族も従前相
当サービスをのぞん
でいるから

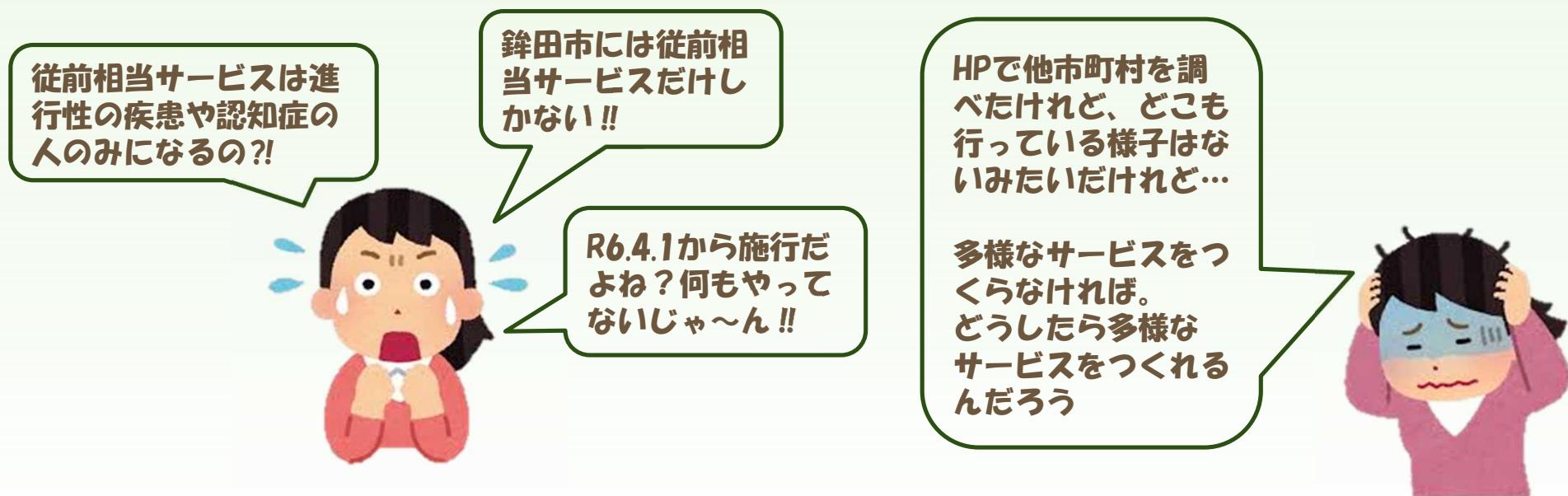
週1回の利用でも
閉じこもり予防に
なっているんじゃ
ない？



身寄りのない人や困難事例への対応で、いっぱい、いっぱい!! しょうがないよね

伴走支援を希望した経緯

►令和6年8月、地域支援事業実施要綱の改正を受け、総合事業ガイドラインの一部改正についての研修に参加。『従前相当サービスの対象者は進行性の疾患や認知症の方のみになる』という衝撃的な事実を知り、どうしたらよいのか分からず途方にくれる日々を過ごす。



►伴走支援への参加を提案され、係内で鉾田市の高齢者が地域でしっかりと自立して暮らしていくように総合事業を見直そうと参加の意思を固めたが、課題も悩みも具体的に言語化できず、どこに課題があるのか分からずまま手を挙げた状況であった。

伴走支援の中で実施したこと

- ▶鉢田市の現状、参加者が感じている問題や課題を参加者で共有。

- ▶課題の整理を目的とした「点検ツール」の作成

- ▶要支援1・2の1年後の増悪率
- ▶支援を必要とする高齢者の状況把握
- ▶「起き楽広場」の好事例について調査

- ▶豊明市「地域ケア会議」の見学
- ▶リエイブルメント型サービスC視察
- ▶閉じこもり高齢者ヒアリング
- ▶一般介護予防事業の棚卸し。
- ▶多様な地域資源の把握(公民館・鉢田市社協・クラブ活動等)

- ▶1回目会議
「鉢田市の現状」「リエイブルメントと介護予防の考え方」等について参加者との共通認識を図る



- ▶通所型サービスCを実施するために、モデル的に事例を選定し同行訪問を実施する

- ▶2回目会議
・在宅介護支援センターの訪問事例をもとに豊明市方式「地域ケア会議」事例共有
・「起き楽広場」委託事業所のリハビリ専門職にも参加してもらい「起き楽広場」の現状と今後について、率直に方向性を話合う



- ▶支援のマトリスク整理
- ▶委託事業者との再調整



伴走支援を受ける中での気づき

▶一般介護予防事業等の事業量は多いが、ターゲットが曖昧

▶把握できない高齢者、潜在的なニーズが見えにくい

▶支援が本当に必要な人につながっていたのか、終了後どうなったのか十分に把握できていない

▶サービスCを再定義し個別改善・短期集中の本来目的に立ち返る

▶既存事業を一般介護予防事業、サービスA・B・Cに再整理する。

▶地域ケア会議が形骸化し、ケース検討・情報共有にとどまりがち。地域の実情や支援の方向性を論議できる場への改善が必要

▶一般介護予防事業の事業数が多く、目的・対象が重複。1人当たりのコストが高い事業も存在し、社会参加目的と身体機能改善が目的が混在し、固定化利用者が多く「卒業が」機能していない。



伴走支援後、どんな形を目指したいか

►フレイル・フルフレイルの方の元気を取り戻し元の生活に戻すための支援を強めたい

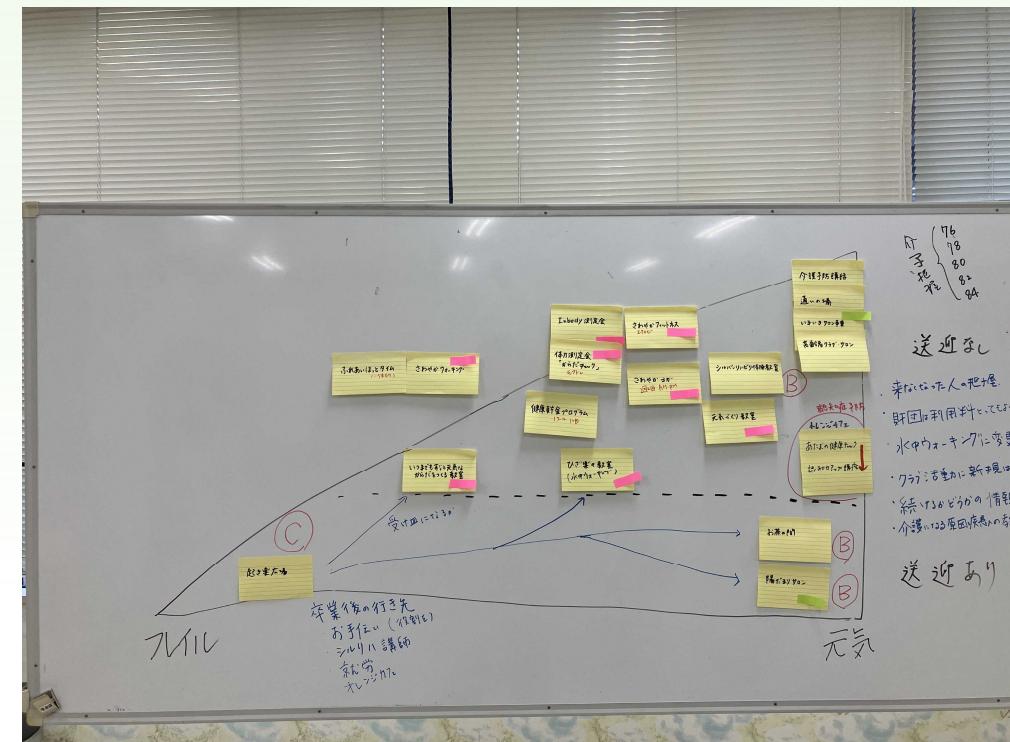
➡リエイブルメント型のサービス・活動Cを実施する。

➡一般介護予防事業を見直し、サービス・活動Cの受け皿となる多様なサービスを作る。

目指す形にするため…

►リハビリ専門職との同行訪問

►一般介護予防事業の中で多様なサービス・活動に移行できる事業がないか見直しを進めている。



伴走支援を受けて

- ▶常にモヤモヤし何から手を付けていいのか分からない状態が、支援を受けていく中で、何を行えばよいのか、事業を実施するための道筋等が見えてきた。
- ▶「フレイルやプレフレイルの方の元気を取り戻したい」との目標が課内で共有されサービス・活動Cをリエイブルメントの考えに基づいたかたちで実施すること、その後の受け皿として一般介護予防事業の中で多様なサービス・活動に移行できるものがあるか見直しを進めている。
- ▶係内だけにとどまらず、会議をきっかけに参加していただいた、委託包括、事業所、社会福祉協議会等の方と今後の鉢田市のあり方、事業の内容等について共有し、話し合える関係がてきた。
- ▶係内では、事業の話をしていても、『この事業はサービス活動にできなか』などという話題が出るようになった。無理だと思っていた多様なサービスの創設ができるのではないかとワクワクしている。
- ▶考えたものがすぐにできるものではない。係内だけでなく地域関係者との話し合いを大事にスモール・ステップで頑張っていきたい。



ご清聴ありがとうございました

